

大学発新産業創出プログラム 社会還元加速プログラム(SCORE)
事後評価結果通知

課題番号	STSC29014
研究開発課題名:	社会問題の解決を起点とする事業化を志向した竹を原料とする次世代材料の製造開発
研究代表者所属機関名・ 研究代表者名:	大分大学 理工学部 准教授 衣本 太郎

1. ビジネスモデル仮説検証の目的

本事業では、竹を資源活用して、社会問題化している竹害を解決することを最終目的とし、竹を次世代で活用されるセルロースナノファイバーを製造する“大分大プロセス”と、製造されるきれいで長い“大分大セルロースナノファイバー”を MVP とした。ユーザインタビューでニーズを把握して、セルロースナノファイバーをサンプルとして提供するとともにフィードバックを受け、MVP とビジネスモデルへの仮説を、テクニカルマーケットフィットを明確にすることを通して検証、修正していくことを目的とした。

2. ビジネスモデル仮説検証の概要

ビジネスモデル仮説を検証するために、顧客候補インタビューを実施し、事業化の確度向上のため特許調査を行って知財戦略の検討を進めた。MVPの一つであるセルロースナノファイバーを製造する大分大プロセスの①ローテク、②簡単、③特殊な機器や薬品を使わないといった特長をアピールして、竹林周辺地域での実装の可能性とそのニーズを把握するためにインタビューを行った。大分大セルロースナノファイバーについては、①セルロース純度が高く、②長く、③竹由来で強いといった特長を説明しつつニーズ把握のインタビューを行った。SCORE活動期間内に、50件以上のインタビューを実施して、事業概要とロードマップを設計した。

①活動内容と成果

実施した活動内容
① MVPとして“大分大セルロースナノファイバー”の製作と顧客候補へのサンプル提供 ② 顧客候補インタビューの実施
成果
① MVPとして、顧客インタビューで使用する“大分大セルロースナノファイバー”を製作した。そして、インタビューでサンプルの要望があった顧客候補にサンプルを提供した。 ② MVPである“大分大プロセス”の社会実装の可能性についてもインタビューを行い、2つのMVPに関するインタビューを50件以上実施し、事業概要とロードマップを設計した。

②今後の展開

- 顧客候補へのインタビューとサンプル提供
SCOREプロジェクト期間中に始めた顧客候補へのインタビューとサンプル提供をさらに進め、顧客の評価を受けてベンチャー設立への確度を上げていく。
- STARTプロジェクトへの応募
ベンチャー設立を目指して、JSTのSTARTプロジェクト支援型への応募を進める。
- 民間支援の活用
ベンチャー設立に向けて、民間支援制度の活用を検討する。
- 事業計画のブラッシュアップ
事業計画のブラッシュアップを進める。

3. 総合所見

ヒアリング、ビジネスモデル仮説検証の活動件数が非常に多く、技術・ビジネス両面での競合比較に基づくビジネスモデルの策定に合理性がある。チームアップ、人脈づくり、Demo Dayでの活動を成功させ、START採択やその他の活動につなげており、順調に事業化に進んでいると高く評価する。

以上